

ロシア東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2003年（平成15年）4月25日号 No.1259

目次

2002年のCIS諸国の経済(下)	1
エトセトラ	9
ユコスとシブネフチが合併で基本合意 / 9	
モスクワ・メルマガNo.16 (クルマ特集) のお知らせ / 10	
『調査月報』最新号のお知らせ / 10	
ロシア東欧貿易会関連の行事予定	11
CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	11

2002年のCIS諸国の経済(下)

はじめに

前回に引き続き、CIS統計委員会発表の統計データにもとづき、同諸国の最新の経済情勢についてのレビューを行う。本号では中央アジア諸国（カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン）および南コーカサス諸国（アゼルバイジャン、アルメニア、グルジア）を扱う。

カザフスタン: CISの優等生の悩み

カザフスタンはCISの優等生と位置付けることができよう。同諸国のなかでも早い1996年にマイナス成長から脱却し、1998年のロシアの経済危機時の一時的なマイナス成長を除くと、一貫してプラスの成長を維持している。成長率は高く、2001年には13.5%増、2002年も9.5%増と、減速しつつも高い伸びを維持している。2002年の政府の財政も収支ほぼ均衡した模様である。将来の原油価格下落時などの歳入減に対処したカザフスタン共和国国家基金を2001年に設立し、2002年末現在で20億ドル弱に達し（同国の予算規模は、2002年予算実績を単純に換算すると歳出は50億ドル強）、財政上の予防的措置も確立しつつある。

高い成長を牽引しているのは石油、非鉄産業などの鉱業部門である。石油産業を中心に外国投資が急増し、石油生産が大幅に増加、輸出も伸びている。国民1人当たりの1989～2001年の累計直接外国投資受入高は765ドルで、他の大部分のCIS諸国が100ドル前後あるいは以下